

りんごのトンネルをくぐりに—



村上みゆきさん (松江市から来園)

ラジオでこちらの来場チケットが当たって初めて来ました。こんなにみずみずしいりんごを食べたのは初めて。やっぱり獲りたては違いますね。今日は、3個も食べてしまいました。お土産用にも買って帰ります。知り合いにも紹介したいし、来年もまた来たいです。

高いところは「つかみばさみ」で

株式会社SBN 中岡 啓さん

代表取締役。赤来高原観光りんご園、赤名観光ぼたん園を運営。名古屋から帰郷し、平成11年秋から、赤来町開発公社が運営するりんご園で勤務。平成19年1月に、株式会社SBNを設立し、運営を引き継ぐ。

収穫の期間は、9月初めから11月中旬までの2カ月ほど。収穫のときはやっぱりうれしい。作業は一年中あって、春は摘果や袋かけ作業、冬には、かんじきを履いて深い雪の上を歩きながら剪定をすることもあります。小さい木なら一本の木に150個ほど、古い大きな木になると500~600個の実をつけるので大変ではありますね。

おいしくて、安心安全なりんごを皆さんに提供できるよう、そして、また来たいと思っていただけるよう、みんなで頑張っています。皆さんの来園を、スタッフ一同お待ちしております！

出荷用のりんごを磨く



中岡さん夫妻(左、中央)と、従業員の藤原梨乃さん(右)

中岡ジェニファーさん

一年かけて愛情たっぷりで作ったりんごを皆さんに食べてもらいたいです。「今年も来ましたよ」とお客様に言われるとうれしいですね。皆さん一人ひとりの出会いが私たちの楽しみと喜びです。

10月2日。11月頃から収穫を迎える「ふじ」はまだ薄い色つき



「秋映」の収穫

藤原梨乃さん

りんごの下側が、黄色くなってきたら食べごろ。「さび」と呼ばれるまだら模様があるりんごが、意外とおいしいです。来場者の方が、獲りやすいように気をつけて剪定しています。



鈴なりのりんご

りんごのトンネルをくぐりに—



赤来高原観光りんご園は、10月24日に開園から25年を迎えます。飯南町の真つ赤な秋の味覚を味わいに、皆さんも行ってみませんか？

平成5年に開園

旧赤来町の第3次総合振興計画の主要プロジェクトの一つ、「高原の魅力づくりプロジェクト」ここに掲げた、「町の自然環境を生かした特徴ある体験型交流」を進めていくため、平成元年、5品種、493本のりんごを導入し、栽培が始まります。その後、品種、本数を増やしなが、平成5年には、平成元年植栽分が収穫できるまでに成長。同年10月24日、10品種、1351本、面積1.4haのりんご園が誕生しました。

現在では、圃場面積も広がり、約2haで、800本、17品種のりんごが栽培され、年間約30トンのりんごが収穫されています。

※開園時から植栽本数が減ったのは、木の間隔を広げるために間引いたため

10月中旬〜3品種が収穫を迎えます

赤来高原観光りんご園では、【さんさ・つがる・涼香の季節・秋映・千秋・やたか・新世界・王林・ふじ】の、9品種のりんご狩りが体験できます。毎年9月初めから11月中旬にかけて収穫が続きます。

広報10月号が発行される10月20日以降は、新世界・王林・ふじが収穫を迎えています。

新世界【10月中旬〜】

果皮は濃紅色に着色し、果肉は蜜入りがよく、果汁が多く硬め。酸味があまりなく甘味が強い品種。

王林【10月下旬〜】

果皮は黄緑色で、果肉はやや硬く緻密で多汁。強い甘さのわりに酸味が弱く、特徴のある香り。

ふじ【11月初旬〜】

果皮は濃紅の縦状に着色し、果汁が豊富で蜜が入りやすい。甘味と香りがしっかりしていて、果肉はシャキシャキ。

赤来高原観光りんご園

●営業期間

11月11日(日)まで
(期間中無休)

●入園受付

9時~16時(開園17時)

●入園料

大人(中学生以上)540円
小人(3才以上)320円

●持ち出し料

500円/kg

●貸し出し料

果物ナイフ100円/本
(ナイフ返却時に返金)

●りんご園で用意してあるもの

- ・ビニール袋(持ち帰り用)
- ・バケツ(皮いれ)
- ・手洗い用の水
- ・長椅子(2,3脚程度、食べる時用)
- ・高い場所のりんごを収穫する「つかみばさみ」
- ※タオル、敷物、まな板、お皿、フォーク等が必要な場合は、持参してください。

品種ごとの収穫時期

品種	8月	9月	10月	11月
ブルーベリー	■	■		
さんさ		■		
つがる		■		
涼香の季節		■		
秋映			■	
千秋			■	
やたか			■	
新世界			■	
王林			■	
ふじ				■